

Ⅸ. 計画地の概要

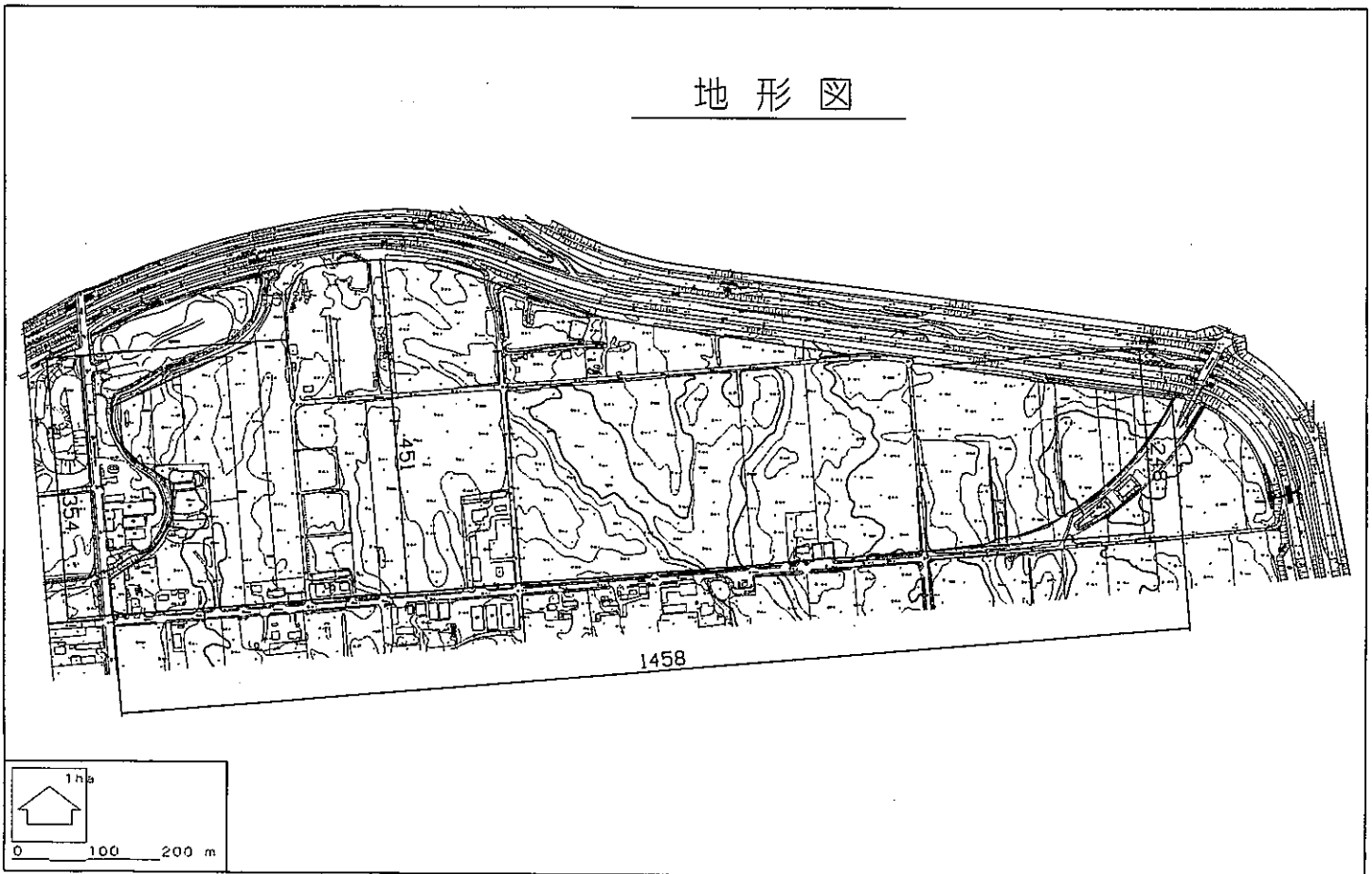
1. 自然系特性

(1). 地形

標高差約 5m のほぼ平坦な地形で、計画地東側は標高 45m を基準にわずかな起伏を形成し、西側は標高 45m から 48m へと緩やかに傾斜している。

敷地外となるが、北側、西土狩川及びシブサラビバウシ川との境界及び道との境界の一部には約 3m 程度の法面が形成されている。

地形図



(2) . 地質・土壌

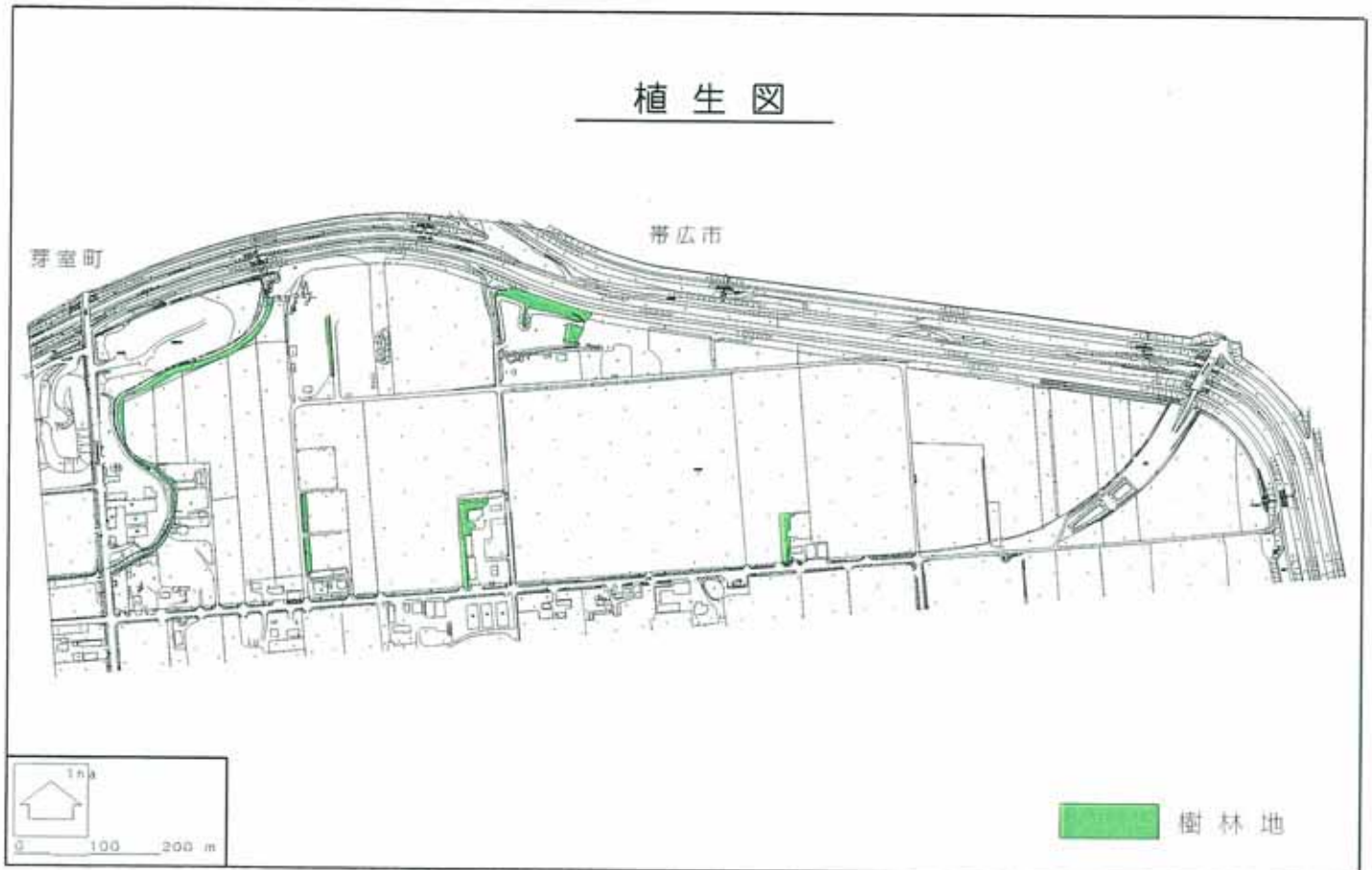
計画地の地質は、砂・礫及び粘土を主成分とする氾濫原堆積物と礫及び砂を主成分とする中札内面堆積物で形成されている。計画地の約6割を占める氾濫原堆積物は、安山岩類・溶結凝灰岩類の礫が多く、多いところでは最大20m前後の層を形成している。中札内面堆積物は、粒径5cm～20cm程の礫層で、基質は粗粒砂・中粒砂からなる。



(3) . 植 生

本計画地では、ほとんどが耕作地で占められており、植生は農家住宅地の周囲に屋敷林的に点在する他、計画地西側を流れる西土狩第1支川沿にわずかに帯状に河畔林が形成されている。

植 生 図



(4) . 景 観

工場・住宅地が点在しており、十勝らしさをイメージするに至っていない。北側には河川を挟んで丘陵地が、西側には遠く幌尻岳が望める。

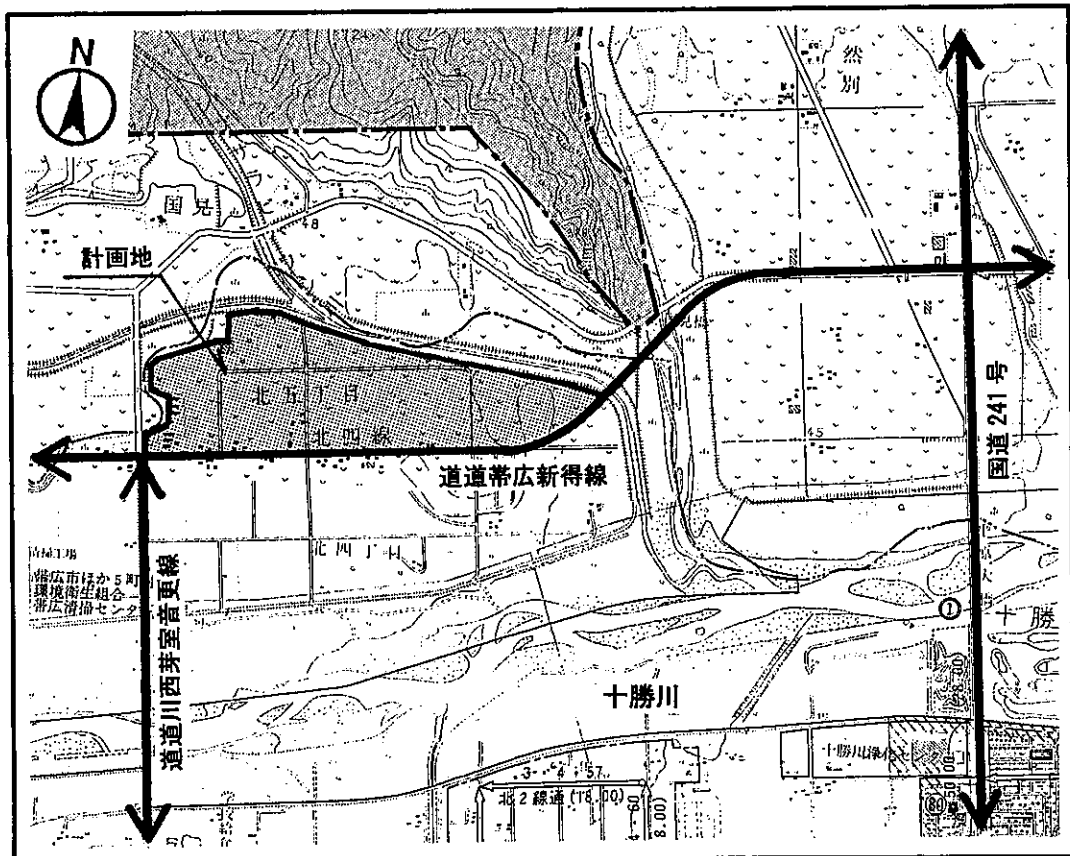
平坦な耕作地、直線的に伸びる道路と田園風景が広がっているが、四方を河川で囲まれた地域で、特徴的な景観は有していない。

2. 社会系特性

(1). 交通

計画地は、十勝川により市街地と分断されており、現時点での主なアクセスとしては、計画地西側を走る道道川西芽室音更線を利用することになる。

現在、計画地南側を東西に走る北4線の道道帯広新得線への路線変更を実施中で、完成すると国道241号を経由し、計画地へ至ることが可能となり、道路網のループ化が進み、交通手段の利便性が飛躍的に向上する。



(2) . 現況土地利用

計画地は、農業振興地域で、敷地の約80%を畑で占めている。所有別をみると民有地が全体の95.7%とほとんどを占め、国有地・市有地は帯状にわずかに分布する。

現況土地利用

地目	国有地		市有地		民有地		全体面積	
	面積 (㎡)	比率 (%)	面積 (㎡)	比率 (%)	面積 (㎡)	比率 (%)	面積 (㎡)	比率 (%)
畑	—	—	—	—	350,922.37	84.3	350,922.37	80.7
宅地	—	—	—	—	26,094.83	6.3	26,094.83	6.0
原野	—	—	—	—	22,653.35	5.4	22,653.35	5.2
雑種地	—	—	—	—	15,747.54	3.8	15,747.54	3.6
公衆用道路	6,374.66	100.0	12,166.99	100.0	941.06	0.2	19,482.71	4.5
計	6,374.66	100.0	12,166.99	100.0	416,359.15	100.0	434,900.80	100.0

(図上求積による)

所有別

所有	面積 (㎡)	比率 (%)
国有地	6,374.66	1.5
市有地	12,166.99	2.8
民有地	416,359.15	95.7
全体面積	434,900.80	100.0

現況土地利用図



—凡例—

	畑		公衆用道路
	宅 地		
	原 野		
	雑種地		

(3) . 周辺土地利用状況

計画地の位置する中島地区は、東の然別川、南の十勝川、北の西士狩川・シブサラビパウシ川に挟まれ、芽室町の丘陵地帯で囲まれた地域で、西側は計画地周辺と同様、芽室町市街地に至るまで農地が広がっている。十勝川を挟んだ南側には市街化区域が形成されているが、工業団地が主な用途で近接する住宅地はない。計画地南西部には、十勝環境複合事務組合のゴミ処理施設・し尿処理施設の他、帯広市の清掃センターなど公共の清掃関連施設が立地されている。

